

# 日本音楽集団

## PRO MUSICA NIPPONIA



第190回定期演奏会  
The 190th Regular Concert

# 邦楽器アンサンブルの展望

Visions of  
Japanese Instrument Ensembles

2008年  
1月26日(土)  
午後3時開演  
(2時30分開場)  
津田ホール

- ：主催：特定非営利活動法人日本音楽集団  
：助成：平成19年度文化庁芸術創造活動重点支援事業  
◆ 日本音楽集団：<http://www.promusica.or.jp/>  
E-mail [office@promusica.or.jp](mailto:office@promusica.or.jp)



第一部

一、子どものための組曲／長沢勝俊作曲／1964年

1章・2章・3章・4章・5章

"Suite for Children", comp. by Nagasawa Katsutoshi

[尺八] I 宮田耕八郎 II 渡辺淳 III 元永拓

[三味線] 杵家七三

[琵琶] 桜井亜木子(助演)

[箏] I 吉村七重 II 田村法子

[十七絃] 久本桂子

[打楽器] 尾崎太一・多田恵子

[指揮] 稲田康

二、組曲人形風土記／長沢勝俊作曲／1966年

〈ニポポ〉〈こけし〉〈のろま人形〉〈流しびな〉〈キジ馬〉〈木うそ〉

Doll Topography Suite, comp. by Nagasawa Katsutoshi

[笛] 藤舎理生(助演)

[尺八] I 宮田耕八郎 II 米澤浩

[細棹三味線] 穂積大志

[太棹三味線] 工藤哲子

[琵琶] 細川華鶴子

[箏] I 熊沢栄利子 II 彦坂恵美

[十七絃] 久本桂子

[打楽器] 多田恵子、盧慶順

[指揮] 田村拓男

三、ディヴェルティメント／佐藤敏直作曲／1969年

1章・2章・3章

Divertimento, comp. by Satoh Toshinao

[笛] 藤舎理生(助演)

[尺八] I 宮田耕八郎 II 加藤秀和

[細棹三味線] 山崎千鶴子

[太棹三味線] 工藤哲子

[箏] I 田村法子 II 渡辺正子

[十七絃] 佐藤里美

[打楽器] 尾崎太一、高橋明邦

[指揮] 稲田康

四、邦楽器のためのコンポジション／秋岸寛久作曲／2004年

Composition for Japanese Instruments, comp. by Akigishi Hirohisa

[笛] 竹井誠

[尺八] I 三橋貴風 II 阪口夕山

[三味線] 簀田弘大

[琵琶] 桜井亜木子(助演)

[二十絃] I 久東寿子 II 高橋はるな

[十七絃] 宮越圭子

[打楽器] 仙堂新太郎、望月太喜之丞

[指揮] 田村拓男

第二部

座談会—邦楽器アンサンブルの展望—

佐藤克明 櫻井あゆみ 田村拓男

第三部

ちくとう

五、竹桐Ⅱ／川崎絵都夫作曲／改定初演

1章・2章・3章

ChikutōII, (revised work), comp. by Kawasaki Etsuo

[笛] 竹井誠

[尺八] I 阪口夕山 II 元永拓

[三味線] 箕田弘大・守啓伊子

[琵琶] 久保田晶子

[箏] I 久東寿子 II 高橋はるな III 彦坂恵美

[十七絃] 佐藤里美

[打楽器] 望月太喜之丞、若月宣宏

[指揮] 稲田康

六、恋—こひうた—歌 春の章／尾形敏幸作曲／委嘱初演

KOHI-UTA 1st movement~Spring,

(commissioned work), comp. by Ogata Toshiyuki

[尺八] 米澤浩

[箏] 熊沢栄利子

[十七絃] 宮越圭子

七、邦楽器のためのインプロヴィゼーション／秋岸寛久作曲／委嘱初演

Improvisation for Japanese Instruments,

(commissioned work), comp. by Akigishi Hirohisa

[笛] 竹井誠

[尺八] 加藤秀和

[三味線] 山崎千鶴子

[琵琶] 久保田晶子

[二十絃] 田村法子

[十七絃] 宮越圭子

[打楽器] 高橋明邦

げんじさんてい

八、源氏三綴／福嶋頼秀作曲／委嘱初演

第1楽章〈折々の光〉・第2楽章〈幼と妖〉・第3楽章〈めくるめく〉

Genjisantei, (commissioned work), comp. by Fukushima Yorihide

[尺八] I 米澤浩・渡辺淳 II 加藤秀和・原郷隆

[三味線] 穂積大志・守啓伊子

[箏] I 熊沢栄利子・高橋はるな II 久東寿子、渡辺正子

[十七絃] I 佐藤里美 II 久本桂子

[打楽器] 仙堂新太郎、盧慶順

[指揮] 田村拓男



## 曲目解説

### 一、子どものための組曲

- 1, 軽やかにのびのびと 2, ゆったりとうたう感じで 3, 遊戯唄風におどけて  
4, しずかに子守唄ふうしに 5, 激しく律動的に

1964年11月17日、日比谷第一生命ホールでの日本音楽集団第1回定期演奏会で初演された作品であり、私たちはこれぞ現代邦楽の始まりと捉える記念碑的な曲です。長澤さんにとってはもちろん初めての邦楽器作品であり試行錯誤の始まりでした。例えば箏の高音域はこれまでにない高い音を使っていたので箏奏者とのやり取りが続きしました。団員は流派やジャンルを超えて集まり対等な立場で議論し合い、作曲家とも共同で作品を生み出すという意識改革、創造活動が始まったのです。今やこの曲は全国各地の大学や一般愛好家、小学生の皆さんまでが演奏するようになっており、縦譜の製作とも相俟ってその勢いは益々大きくなりそうです。

(田村拓男)

### 二、組曲 人形風土記

スマトラの抑留生活を体験した作家が、帰国後アコーディオンとともに運よく人形劇団〈ブーク〉に入り、全国を巡回公演、日本各地の素朴な郷土人形との出会いでこの曲が誕生しました。①「ニボポ」アイヌに伝わる木彫りの信仰人形、②「こけし」東北地方の郷土人形、③「のろまん人形」佐渡の人形芝居に使われるおどけた顔の首人形、④「流しびな」鳥取地方の行事で厄を払い、子どもの健康と幸せを祈って雛人形を川に流す、⑤「キジ馬」大分県万年山周辺の村々ではナター丁で仕上げる白木のキジ車、⑥「木うそ」福岡県大宰府天満の「うそ替え」の行事(1月7日)は、一年のうそを「木うそ」の交換で帳消しにする。「ニボポ」を聴き感動した砂川しげひさ氏(漫画家)と柳家小三治氏(落語家)の対談\*「長澤勝俊～音に命を吹き込む…長沢音楽のすべて」は必読に値します。

(田村拓男)

\* 本日ロビーにて販売中。

### 三、ディヴェルティメント

1969年、第10回定期演奏会で初演(日本音楽集団委嘱)されて以来、この曲は大学の邦楽グループや若いアマチュアにも度々取り上げられ、今日まで多くの人に親しまれている作品です。曲名(モーツァルトやハイドンが好んで作曲した軽妙な娯楽音楽的性格の強い器楽合奏形式)が示すように、作曲者は江戸時代の封建制・家元制の影響下に閉ざされた邦楽を、自由かつ率直に人間の叫びを表現する開かれた音楽へと解き放つことを意図したということで、そこには日本人が自国の伝統音楽にもたされざるを得なかった偏見を取り払う意味も含まれています。

1楽章は短調的、2楽章は教会旋法的、3楽章は五音階的な傾向を持ちますが、全体に極めて自由で、伝統音楽にはなかった新しい楽器の用い方、伸びやかで生き生きとした曲想、親しみ易い旋律線、アンサンブルの楽しさなど、現代邦楽合奏曲のポピュラー的存在といえます。(田中悠美子～第82回定期プロより)

### 四、邦楽器のためのコンポジション

洋楽器の多くは、オーケストラの発達に伴い、広い会場で多くの聴衆の耳に届くように改良されてきました。しかし日本の楽器は、歌舞伎の伴奏に使われる長唄の三味線などの一部の例を除いて、そのようには発達してきませんでした。私たち日本音楽集団は日本の伝統楽器を使って、今までにない規模の合奏や、同じ舞台に乗ることなどあり得なかった楽器のアンサンブルを試み、新しい音楽を創造してきました。10人の奏者によって演奏されるこの「邦楽器のためのコンポジション」は、そのような邦楽器による洋楽的感覚の合奏のおもしろさ、楽しさを、日本音楽集団を初めてお聴きになる方にも気軽に体験して頂けるよう、10分たらずの中に詰め込みました。

(秋岸寛久)

## 長沢勝俊

音に命を吹き込む・・・  
長沢音楽のすべて



日本音楽集団の西川浩平、水川寿也、宮越圭子の対話者が、“長沢ブシ”の魅力を訪ね、長沢勝俊の音楽人生について語る。

長沢と共に歩んだ方々の貴重なメッセージを収録。また、作品年表も掲載。 A5判 定価700円

## 曲目解説

### ちくとう 五、竹桐Ⅱ

この曲は「竹桐之賦」(中央大学竹桐会2002年委嘱作品)を今回の演奏会にあたって改訂したものです。楽器編成は篠笛、琵琶、打楽器2を加えました。僕は大学や一般の邦楽合奏団向けの大編成の作品を書くことを自らのライフワークの一つとしています。『竹桐Ⅱ』は演奏の難度を高くせずに斬新な曲にしようと試みて、充分な手応えを感じています。今日の演奏を皆様に楽しんで頂けることを確信しています。

### 六、恋—こひうた—歌

「恋歌」に「春」とくれば誰しも風光るなか寄り添って歩く2人連れを連想するであろう。また、色とりどりの花に包まれ、暖かな気候と共に心も浮き立って来るというものだ。ところが私が発想した「春の章」は少しばかり物憂い気分の物語である。何かと明るい話題に事欠かない季節であるが、春疾風が吹けば砂塵を巻き上げるし、花曇りの下、春愁が宿り、ふとした悲しみに襲われることもある。そう、人間は不幸な境遇にあれば幸せを切望するし、幸せな境遇にあればあったで、果たしてそれが永遠に続くものかと不安になったりする。常に心理は一定でなく揺れ動く。そんな人間の微妙な心理の移ろいを尺八と箏の音に托してみたかった。

### 七、邦楽器のためのインプロヴィゼーション

「インプロヴィゼーション」とは「即興」の意味で、音楽においては「即興演奏」を指すことが多いのですが、この曲にはそういった要素はありません。むしろ次々と変わる拍子の中での七人の緻密なアンサンブルが要求されています。七つの楽器が楽しく生き生きとそれぞれの歌をのびやかに歌い、一つの音楽に収束していく様子を思いえがきつつ作曲しました。演奏する人にも、聴く人にも素直に気楽に楽しめる音楽です。くつろいでお聞きください。

### けんじさんてい 八、源氏三絃

今年「源氏物語千年紀」。ちょうど1000年前に世に出た『源氏物語』は54帖からなる大作ですが、本作品は特定の帖や場面を描写している訳ではありません。その象徴的なイメージを、邦楽合奏による音の挿画として3つの楽章にまとめたものです。

第1楽章(折々の光)では、例えば「尺八1、2」とか「三味線、十七絃」のように、2つの楽器が言葉をたたみかけるかの様にメロディーを演奏します。第2楽章(幼と妖)では尺八と三味線のソロでスタートし、後半は妖しい響きの中でかすかにわらべ歌が聞こえます。第3楽章(めくるめく)は Rond 形式で、鈴の音を伴う主題が繰り返される運命の様です。なお日本音楽集団の合奏では、琵琶や笛を含んだ編成をとることが多いのですが、この作品ではそれらを用いず、より一般的ないわゆる三曲合奏(=尺八、三味線、箏)に近い編成を取っています。



川崎 絵都夫(かわさき えつお)

作曲家。1959年東京生まれ。魚座。A型。東京芸術大学音楽学部作曲科卒業後、オーケストラとして活躍。並行して邦楽器、合唱、室内楽などの委嘱作品発表を続けている。文学座・新国立劇場を始めとした舞台音楽も多数。

邦楽合奏作品は親しみ易い作風で広く演奏されている。日本作曲家協議会会員。主な邦楽作品「花織」「蒼き狼の夢」「梁塵今様」「箏・ふたつ」「尺八三重奏曲」



尾形 敏幸(おがた としゆき)

東京芸芸大学大学院修了。作曲を甲斐説宗、三善寛の各氏に、大学院在学中に笹川賞、現朝日作曲賞等を受賞。平成10年には無伴奏混声合唱のための「上代歌謡抄」により、文化庁舞台芸術創作奨励特別賞を受賞。NHK、全日本合唱連盟主催の合唱コンクール、東京都民合唱コンクール等の審査員を歴任。

現在、日本現代音楽協会会員、日本音楽集団作曲家団員。日本音楽集団初演作品に「豊穰なる国のはてで」「萬懐あまつかぜ」等がある。



秋岸 寛久(あきぎし ひろひこ)

横浜生まれ。東京音楽大学作曲科卒。助川敏弥、浦田健次郎、三木稔の各氏に師事。同大学研究科を修了後、日本音楽集団に入団。邦楽器のための作品も数多い。日本フィル九州公演、横浜国大グリーククラブ、NHK邦楽技能者育成会、オーストラリア、シュライニ

ング音楽祭、オーケストラ・アジア等からの委嘱や、市川猿之助スーパー歌舞伎「オオクニスシ」の音楽、NHK伝統和楽団の編曲等を手がける。



福嶋 頼秀(ふくしま よりひで)

1967年群馬県生まれ。慶應義塾大学卒。東京フィル、東京都響、日本フィル、京都市響からの編曲・構成・司会依頼等が多数。現田茂夫、金聖響、足立さつき、錦織健、佐野成宏、古川展生の各氏などが演奏。2003年チヨンミンファン監修指揮のコンサートの構成編曲を担当、DVD化される。

土曜ワイド劇場、月曜ドラマスペシャル、舞台の劇伴音楽も多数。邦楽作品も多く、日本音楽集団だけでなく、深海さとみ、藤原道山の各氏などが演奏している。

## 座談会に寄せて～

日本音楽集団、トリトン・アーツ・ネットワーク 二つのNPOによる取り組み

### 「Meet the 和楽器」

櫻井 あゆみ

NPOトリトン・アーツ・ネットワーク(以下TAN)は東京都晴海にあります“第一生命ホール”の主催事業と近隣地区での音楽によるコミュニティ事業を活動の2本柱として、2001年に設立されました。日本音楽集団の第一回定期演奏会は旧第一生命ホールで行われたという長い歴史の中で、現在も年に2回新しくなった第一生命ホールで定期公演が行われています。

コミュニティ事業では第一生命ホールに出演のアーティストと協同して、中央区及びその近隣地区の小学校や病院、福祉施設等へ年間40箇所程度、生の音楽を届けています。

「Meet the 和楽器」はその中の一つのプロジェクトとして、2006年度より3ヵ年計画で中央区の小・中学校を訪問することと、誰でも無料で参加のできる一般公演の実施を目的としています。

2006年度は文化芸術振興基金、日本財団より助成をいただき6つの小学校と日本橋公会堂での一般公演を、2007年度は日本財団より助成をいただき3つの小学校と同じく一般公演を実施いたしました。

その年の予算や受入側の都合もありますが、なるべく多くの学校で実施できるようにと進めています。

学校では音楽の授業で邦楽器それぞれの特徴について学んだり、ソロ演奏のCDを聴いたり時にはプロの演奏家が学校へ来て演奏を聴いたりすることはあるそうですが、アンサンブルを聴くことはほとんどないそうです。「Meet the 和楽器」では“邦楽器のアンサンブル”を子供たちに聴いてもらい興味を持ってもらうことを目的としていますので、編成は笛・尺八・三味線・琵琶・箏(十七絃・二十絃)・打楽器の7名で様々な楽器を知ることができるようにしてます。演奏の他に楽器体験のコーナーも設け、代表者に箏・尺八・打楽器の体験をしてもらい、その難しさや面白さを実際に感じてもらいます。見ている子供たちも同級生の子が楽器と格闘している姿をみることでその楽器をより身近に感じられると思います。子供たちはなるべく少人数で演奏者を囲むように座ってもらい、全員が演奏者の様子を間近で見ることができるよう工夫しています。また、計画段階では予定していなかったのですが、受入側の学校の先生との話し合いで、午前中にコンサートを聴いた後、お昼休みの時間を使って楽器自由体験を実施することとなりました。強制参加ではなく希望者のみの参加なので、最初は「どのくらいの子達がコンサートを聴いて興味を持ってお昼休みに集まってくれるのだろうか?」と少し不安でしたが、そんな不安はすぐに打ち消されました。どこの学校でもお昼休みになると多くの子供たちが急いでやってきて列を作って楽器体験に夢中になってくれました。

一般公演は、学校で子供たちが体験したことを家族で共有してもらいたいという気持ちで毎年1月に実施しています。日本人として日本の伝統楽器を愛する心を持って欲しい。日本音楽集団、トリトン・アーツ・ネットワークの思いが少しずつでも確実に広がっていくことを願って。



#### ●子どもたちから

すごくきれいなおとできれいなおんがくですごくたのしかったです。(小学1年)

とてもいい音楽をたくさんありがとうございました。わたしが好きになった曲は、夏の日でした。それから、好きになった楽器は尺八です。耳に音がびびきました。(小学3年)

ぼくは和楽器なんてたいしたことないと最初はそう思っていました。でも最初の曲をきいてからもうむちゅうになってきいていました。今度コンサートをききに行ってみたいです。(小学4年)

和楽器の音色がこんなにいい音だとは思わなくてびっくりして感動しました。特に一番心に残ったのは三味線です。三味線はけっこう耳にする事は多いので簡単なのかなと思いき、三味線を実際にひいてみて、バチを持ったらバチを持つ手の親指が痛くなって、三味線をひくのは大変なのだと思いました。(小学6年)



# 邦楽アンサンブル～新たな都市文化として

佐藤 克明

日本音楽集団が発足した1960年代半ばの日本は、国民一人当たりの生産量が資本主義社会で世界第2位となるなど、経済は高度に成長していました。その反面、産業が撒き散らした災害は、健康や環境を破壊する公害として社会問題となり、また、大都市への人口集中（過密化）と農村部の人口減少（過疎化）は、国民の生活と地域社会を大きく変えていきました。文化の一極集中と、伝統文化の衰退も、この中で急激に進みました。これを、都市化の進展という面だけから捉えても、都市の中の地域コミュニティの衰弱、地域伝統文化の衰退、それと対照的に、新たな都市文化の興隆が見えてきます。

かつては地域に根付き、流派を形成して、芸と技を継承してきた日本の伝統音楽もまた、そうした社会的な状況の変化の中で、どのような道を選ぶかが問われてきました。日本音楽集団が、作曲家と演奏家の協働によって、それまでになかった邦楽のアンサンブルを創ったことは、流派を越えた活動とともに、新たな都市文化を生み出す道を拓いたものと言えましょう。

この座談会の前に、いま各地に邦楽のアンサンブルが増えていると聞きました。全国の都市化がさらに進み、地域が変わり、それぞれに新たな文化を求めている中で、私はこれまで、主として地域のオペラ、祭の芸能、伝統人形芝居などに注目してきました。オペラは多少事情が異なりますが、伝統的な分野では、地域に指導者が少なくなり、後継者や鑑賞者をどう広げていくのかを狭い範囲で悩みながら手探りしているのが現状です。

邦楽アンサンブルはどうでしょうか。邦楽のもつ伝統の根強さとともに、演奏を伝承する体系をもち、指導者も（広域的に見れば）多く、日本音楽集団が作曲家とともに創り出してきた新たな作品とその演奏という目標もあるところから、創造面でも、新たな鑑賞者を広げる可能性も、それぞれ大きなものがあると言えるのではないのでしょうか。

座談会では、大都市の中の地域、東京都中央区で子どもたちに邦楽を広めてきたお話を聞けることも楽しみです。

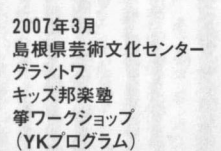
長澤勝俊さんの訃報に接し、いまから52年前に初めて知った若き長澤さんの作品、石川啄木の「詩」というタイトルの詩集の「はてしなき議論の後（一）」による合唱曲をしみじみと思い出しました。その後の名曲の数々にも通じる叙情が光る一曲です。そこでも感じた社会への確かな眼差しと創造が一つになっていた長澤勝俊さんに、心からの哀悼の気持を捧げます。

## 急告！長澤勝俊氏逝去

日本音楽集団名誉代表作曲家長澤勝俊氏が心不全のため1月10日、22時30分逝去されました。享年84歳（1923年8月2日生）。日本音楽集団は今、大きな悲しみに打ちひしがれています。奇しくも、本日は長澤勝俊氏の追善コンサートになりました。心からのご冥福をお祈りいたします。



2007年10月  
横浜芸術文化振興財団  
横浜市芸術文化教育プログラム  
箏ワークショップ



2007年3月  
島根県芸術文化センター  
グラントワ  
キッズ邦楽塾  
箏ワークショップ  
(YKプログラム)



櫻井 あゆみ(さくらい あゆみ)

Meet The 和楽器 プロジェクトマネージャー  
1977年群馬県生まれ。昭和音楽大学音楽芸術運営学科卒業。卒業後クラシック音楽事務所にて、ファミリーコンサートや学校での鑑賞事業など年間約60公演を企画・制作。その後04年6月、第一生命ホールを拠点に活動するアートNP O、トリトン・アーツ・ネットワーク(TAN)に入社し現在に至る。TANでは東京都中央区を中心に学校、病院、福祉施設などで生の音楽に触れてもらうアウトリーチや、平日の昼間にホールで気軽に音楽を楽しめる「クラシックはじめのいっほ」公演、文化ボランティア(サポーター)事業などのコミュニティ活動に携わっている。共著「TANアウトリーチ・ハンドブック」(パンセ・ア・ラ・ミュージック出版)。  
<http://www.triton-arts.net>



佐藤 克明(さとう かつあき)

音楽評論家  
1934年3月東京生まれ。1957年から音楽評論の筆をとるかたわら、音楽団体役員、音楽雑誌編集委員などを経て、1973年日本フィルハーモニー交響楽団の要請により、日本フィルハーモニー協会設立に関わり、80年までその事務局長、その後代表委員を務める。1985年社団法人日本芸能実演家団体協議会(芸団協)に招かれて、文化政策研究委員、のち専門研究員として、国と自治体の文化政策の調査研究、伝統と現代にわたる舞台芸術芸能各分野の調査研究、振興策の企画提言、公立文化施設の調査や企画協力に携わる。著書に「芸能学」「芸能浴言」「音楽市民まちをつくる」「オペラのあるまち」ほか、共著に「ザ・オーケストラ」ほか。音楽著作権、オーケストラ運営、聴衆論など論文多数。オペラ台本「水の声」(日立市市制60周年記念委嘱作品、2000年初演)、「久保田城下町～押し花の愛」(秋田市建都400年記念委嘱作品、2003年初演)。現在、(社)全国公立文化施設協会(公文協)アドバイザー、日立市科学文化情報財団アドバイザー、全国オペラフォーラム総合コーディネーターなど。



田村 拓男(たむら たくお)

日本音楽集団代表 指揮者  
1935年2月、島根県生まれ。1964年日本音楽集団の創立に打楽器奏者として参加。後に指揮者として活動。1992年より代表。

料愉  
に楽しむ

## 株式会社 琴光堂

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷2-19-15  
TEL 03(3792)8481 FAX 03(3792) 8437  
E-mail : tokyo@kinko-do.com

### 日本音楽集団 夏期合奏講習会2008 開催!

長沢勝俊の名曲「春の一日」、そして今回の定期で初演の2曲を日本音楽集団指揮者田村拓男と所属の演奏家と共に合奏体験してみませんか?

日程：2008年8月8日(金)～10日(日)  
会場：大日本家庭音楽会 神田スタジオ

#### 【講習会曲目】

- ・「春の一日」(長沢勝俊)
- ・「邦楽器のためのインプロヴィゼーション」(秋岸寛久)
- ・「源氏三織」(福嶋頼秀)

### 日本音楽集団定期演奏会 《モニター・ボランティア》募集

定期演奏会にご来場くださり、お客様の視点からの印象や感想などをレポートしていただく《モニター・ボランティア》を募集しています。レポートは音楽集団の定期演奏会の運営に役立たせて頂くほか、「モニター・レポート」として音楽集団のHP上で公開することもあります。

♪ 応募方法 / 本団事務局宛てに応募用紙とともに作文を送付していただきます。

♪ 第10期締め切り / 平成20年4月21日(月)

ご希望の方は演奏会場、または日本音楽集団事務局へお問合せいただき、詳細な応募要項をお求めください。

## 《ニッポニア・ファイブ》募集中

連続5回の定期演奏会がお得な料金でフリーパスになる他、数々の特典があります。

●ニッポニアAファイブ＝前売り定価5,000円のA指定席を5回連続15,000円

●ニッポニアBファイブ＝前売り定価4,000円のB指定席を5回連続12,000円

以上詳細は日本音楽集団事務所までお問い合わせ下さい。

### ● 賛助会員へのお誘い ●

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動を目指したく、ご協力お願い申し上げます。

募集の詳細はチラシをご参照ください。

#### 【賛助会員】五十音順

法人 (株)全音楽譜出版社  
(株)宮本卯之助商店  
NPOトリン・アーツ・ネットワーク

個人	青柳 堯 大 関 富 枝 後 藤 陽 子 宮 川 慶 子 安 達 真 五 太 田 富 楓 衣 藤 反 田 素 幸 渡 辺 邦 子 新 井 克 輔 大 塚 悦 子 棚 野 正 士 飯 塚 絹 子 川 壁 正 土 井 惠 見 江 西 緑 岸 彰 則 水 野 正 徳
----	--

特定非営利活動法人

## 日本音楽集団

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302 TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033  
ホームページ <http://www.promusica.or.jp/> E-Mail [office@promusica.or.jp](mailto:office@promusica.or.jp)